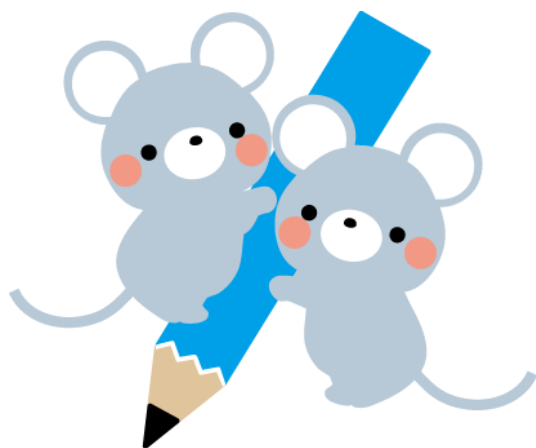


ほっと通信



平成29年度になって2カ月が過ぎ、それぞれの学校における教育活動が本格化してきていることと思います。それにつれて、子どもたちの学習面や生活面において、気になることもだんだん増えてきているのではないのでしょうか。

巡回相談チームも、昨年度は例年以上に巡回の依頼があり、十分に対応しきれなかった面もあったかもしれませんが、何とかに皆さんのお役に立てるよう一同張り切っているところです。新しいメンバーも加わりましたので、紹介がてらごあいさつしたいと思います。

今年度もまた、よろしくお願いします。



今年度の巡回相談チームのスタッフです！

今年度の教育支援課 相談担当 巡回相談チームのスタッフは以下の通りです。

- | | |
|------------------------|----------------------|
| ○主査（市職員） | 菅原 慎逸 |
| ○主任（市職員） | 山岸 輝昭 |
| ○研究主事（市立中学校 管理職経験者） | 小井塚 洋一 |
| ○心理相談員（市嘱託員） | 田村 茉菜 ・ 近藤 正美 ・ 齋藤 登 |
| ○特別支援専門相談員（作業療法士／市嘱託員） | 大月 逸平 |
| （言語聴覚士／市嘱託員） | 大御堂 昇代 |

平成27年度までの巡回相談チームは、心理士と研究主事がペアになって、市内の小中学校に伺って来ました。しかし、平成28年度からは作業療法士が、そして今年度からは言語聴覚士が加わり、バラエティーに富んだスタッフ構成となりました。

これは、より幅広い専門性をもつことで、学校からの多様な支援のニーズに応えていこうとするものです。是非とも有効にご活用ください。

そこで、皆さんにとっては耳慣れないかもしれない「作業療法士」「言語聴覚士」という職種、活動内容についてお話ししたいと思います。よろしかったら、次のページを開いてみてください。

作業療法士って何？ 言語聴覚士って何？

巡回相談チームの中には、4つの職種のスタッフがあります。それが「心理士」「研究主事」そして「作業療法士」と「言語聴覚士」です。

ご承知だと思いますが…

「心理士」は、対象となる児童・生徒の行動や発達の見立てを行い、その対応や支援の仕方について、関係する先生や保護者にアドバイスをしていきます。

「研究主事」は、授業の進め方、学級経営、教室の整備など、学校教育の視点から、アドバイスをしていきます。

それでは、「作業療法士」や「言語聴覚士」はどんな役割を果たすのでしょうか？

特に今回は、『巡回相談』というフィルターを通して、ちょっとお知らせしていきたいと思っています。

【豆知識①】
作業療法士の「OT」とは、「Occupational Therapist (オキュペーショナル・セラピスト)」からとったものです。もともと「Occupation」は「仕事・職業」と訳されますが、ここでは「作業＝動き・所作」といった意味でしょうか。「作業の治療専門家」ということになります。

“作業療法士 (OT)” って？

作業療法士 (OT) とは…

人の日常生活に関わるすべての諸活動を「作業」と呼んでいます。何らかの作業が遂行しにくい場合に、その原因を調べ、アドバイスを行うことで、作業や活動がしやすくなるようにお手伝いするものです。

作業療法士が見ているポイント

- ・歩く、走る、座るなどの動きや姿勢
- ・手先や目や口などの動き
- ・周囲の環境に対しての感じ方（感覚のとらえ方）

その他…
・絵や文字のバランス
・鉛筆の持ち方、道具の使い方
・日々の生活情報など、いろいろです。

学校の中での作業療法士の役割

児童・生徒の活動などを分析して作業がしやすい支援を考えます。

例えば、授業中姿勢が崩れてしまう、手先が不器用、体育でダンスなどが苦手などのことに対して、どうしてそうなるかを身体面や感覚などの面から評価して、それに対してのアドバイスを行います。

見る授業など

静的なもの（国語、算数など）と動的なもの（音楽、体育など）と組み合わせていただくとよりよいかと思います。

座っていても大丈夫ですよ～！

作業療法士からの『ひと言』

作業療法士が見るポイントの一つに感覚のとらえ方があります。

みんなと同じ環境でも、ちがう感じ方をしてしまう人もいます。人はそれぞれ得意な事や苦手なこと、ものの感じ方、考え方も違います。まわりを不安にさせてしまう人も実は精一杯頑張っているのかもしれない

迷惑な人！と避けてしまう前に「なんでそんな行動をするのだろう？」と考えてみませんか？

“言語聴覚士 (ST)” って何？

言語聴覚士 (ST) とは…

言葉には、話し言葉 (Speech) と言語知識 (Language) があります。

「言葉によるコミュニケーションがとりにくい」という場合、「話言葉？」「語い？」「それともほかのこと？」など、その困難の原因がどこにあるのかを調べ、どのようなサポートを必要なのかを考えて、お手伝いをしていくものです。

その他…
・聞き違いや聞きそこねは？
・友達とのおしゃべりやかかわりは？

言語聴覚士が見ているポイント

- ・読む、書く、話す、聞くことに対する興味・関心があるか
- ・ノートの取り方、作文の文字の書き方
- ・言葉のキャッチボールができていくか
- ・聞こえ方（聴覚の機能）に問題はないようだが、言葉による指示が入っているのか

学校の中での言語聴覚士の役割

例えば…

「授業中に黒板の文字をきちんとノートに写せているか」

「教科書を読むときに文字や行をとばして読んでいないか」

「作文で、漢字の間違ひが多くないか、ひらがなばかり書いていないか」など、

特徴的な言葉の使い方をしていないかをチェックします。

このような言葉の使い方の特徴を言語面から評価して、苦手意識につながらないように、アドバイスを行います。

見る授業など

話し合いやグループ活動の時間などで発言するところ、音読場面なども見せてもらえるとうわかりやすいです。

掲示物、書いたノートや宿題なども、参考になります。

【豆知識②】
言語聴覚士の「ST」は、「Speech Language-Hearing Therapist (スピーチ・ランゲージ・ヒアリング・セラピスト)」からとったものです。日本語に直すと、「話し方・言葉・聞き方の治療専門家」ということでしょうか。

言語聴覚士からの『ひと言』

伝えたいことが思うように伝わらない、「何となくうまくいかない」ということの背景に“言葉の困難”が隠れていることがあります。「コミュニケーションがうまくいかない」と自信をなくしてしまうこともありますが、それに代わる手立て（代替機能）を工夫することで、世界が広がることもあります。

社会に出たときに、自信を失わず明るく生きていけるように、コミュニケーションの面でサポートすることができればと思います。

子どもたちが困っていることの原因は、本当にいろいろです。それだけに、多様な視点から考えていくことは、支援の手立てに近づくための大きな力となります。

巡回相談チームでは、心理、教育、運動・感覚、言語のそれぞれの専門性を生かして、少しでも個々の課題に近づくための知恵を絞っていかうと考えています。受け付けのとき、どのようなアプローチがいいのかを考えるための情報として、「運動面・感覚面は？」「言語面は？」といったことを伺います。

巡回の申し込みをする際には、そうしたことも頭に入れていただくとありがたいと思っています。これからもよろしく願いいたします。

特別支援の手立てをことわざに置き換えてみると、そこには案外身近な示唆が含まれています。子どもたちとかがわるとき、ちょっと立ち止まってみるきっかけになってもらえればと思います。

【転ばぬ先の杖】

- ①「猫を追うより、皿を引け」「予防は治療にまさる(Prevention is better than cure.)」
- ②失敗しないように、あらかじめ念には念を入れて用心しておく。
- ③『見通しをもつ』『リスクマネジメント』『後追いにならない』
- ④あるベテランの先生に「子どもの行動を止めたいなら、追いかけるのではなく前に立って止める」と言われたことがあります。事前の準備をすることは、『注意を減らす』ということにもつながると思います。

- ① 似たようなことわざ
- ② 本来の意味
- ③ 特別支援に置き換えてみると…
- ④ コメント

【過ちは、好むところにあり】

- ①「好事、魔多し」「策士、策におぼれる」
- ②自分が得意なことや好きなことをしているときに、えてして失敗が起きる。
- ③『油断』『自信過剰』『自分本位』『押しつけ』
- ④私たちも、自信があると、つい無理をしてしまいがちです。また、子どもたちに好きなことをさせるときも、気をつけないと、なかなか終わらなかつたりこだわりが強くなつたりして、收拾がつかないこともあります。

こうして見ていくと、『特別支援』で、特別なことではないんだね！



【瓜(うり)のつるに、茄子(なすび)はならない】

- ①「キュウリの種を植えたなら、キュウリ以外のものがとれると思っではならない」
- ②過剰な期待をしてはならない。
- ③『それぞれに合った期待感』『負荷をかけすぎない』
- ④保護者だけではなく先生方も、つい言うてしまう「がんばれ！」の一言。その子に合った応援であって、「無理解な激励」にならないように気をつけましょう。

【三人寄れば、文殊の知恵】

- ①「二人の頭は、一人の頭にまさる(Two heads are better than one.)」
- ②みんなが集まって考えれば、一人では到底できないような(文殊菩薩のような)知恵が出る。
- ③『チーム学校』『校内委員会』『関係者会議』『学年体制』『チームティーチング』『連携・協力』
- ④「学校の中で担任の先生だけが…」「お母さんだけが…」といったことを耳にすることがあります。いいアイデアのためだけでなく、重荷をみんなで分け合うことも大切です。決して孤立しないでください。



これまでのくり返しになってしまいますが、巡回相談では、特別な支援が必要と思われるお子さんについて、授業観察や聞き取りを通して特性を見立て、先生方と支援の方向を考えていきます。障害の判定や就学先を決めるためのものでもありません。児童・生徒の支援に関してはさまざまな手段・資源がありますが、その一つとしてご活用ください。お申し込みは管理職または特別支援教育

コーディネーターから電話でお願いします。